

電子自治体に関する市町村の取り組み 電算経費削減に関する報告について

山梨県市町村総合事務組合 電子自治体推進室
野中 義法

I はじめに

本組合に設置されている電子自治体の推進に関する研究会（市町村情報担当者により構成）において、平成二十五年度の主要テーマを「電算関係経費の削減に向けた調査・検討」として掲げ、具体的な調査・研究はワーキンググループ（以下「WG」という）を設置して行うこととした。

WGは、「情報機器・システム運用と事業継続WG」、「番号制度対応WG」、「電子調達WG」の三グループを設置し、六月から十一月まで毎月開催し、十二月に報告書をまとめたところである。

それぞれのWGでまとめた報告内容については、以下のとおりである。

II 情報機器・システム運用と事業継続WG

具体的な検討目標として、クラウドサービスや仮想化技術といった方法を調査・研究し、自治体に

合った情報システムの効果的なシステム更新及びシステム新規導入方法を選択できる評価書案の作成、また、平常時及び災害時における情報機器の運用方法案を作成することとした。

一 システムの管理・運用方法及びバックアップ方法についての調査・研究

四つの運用方法（SaaS、IaaS、仮想化、1システム1サーバ）について、「災害面」「価格面」「運用面」の三つのカテゴリでメリットとデメリットを調査し考察した結果、システムをSaaS方式で運用し、且つバックアップを自庁に置く方法が一番高評価であることから、この方法がベストな運用方法であると結論づけた。

二 システムの調達方法についての調査・研究

「既存事業者との随意契約」「競争原理を働かせるプロポーザル方式の入札」「通常の一般（指名）競争

入札」について、メリットとデメリットを整理し考察した結果はそれぞれ次のとおりである。

・「随時契約」

既存事業者からの方が確実に安価である場合や早急な対応が必要とされる場合に採用が考えられるが、調達手続の透明性や公平性を担保する必要があるので採用には注意すべきである。

・「プロポーザル方式」

広範囲に及ぶシステム調達に向いている。システム調達には、実施体制や実施方針、技術提案等に関する提案書から採用を決める当該方式を採用すべきである。

・「二般（指名）競争入札」

情報通信機器等の仕様が決まっているものなど、どの業者でも差異が生じないものは当該方式を採用することが妥当である。

三 事業継続（ICT・BCP）に関して

事業継続に関しては、検討時間が無く調査・研究できなかったため、当WGを継続し、ICT・BCPの初動に特化した調査・研究を行っていくこととした。

◎システム 1 SaaS 2 IaaS 3 仮想化 4 1システム1サーバ

項目	定義	最有利	有利	不利	最不利
管理（平時）	職員の負担（情報担当）	1	2	3	4
障害（平時）	ハードウェアの障害	1	2	3	4
カスタマイズ（法改正時コスト削減）	改修コスト	1		2 3 4	
価格	初期費用 維持管理費用 含	1	2	3	4
地域内災害	地域内で災害が発生	1 2			3 4
地域外災害	地域外で災害が発生	3 4			1 2

◎バックアップ

項目	定義	最有利	有利	不利	最不利
障害（平時）	ハードウェアの障害	1 2		3	4
価格	初期費用 維持管理費用 含		1	2 3 4	
地域内災害	地域内で災害が発生	1 2			3 4
地域外災害	地域外で災害が発生	3 4			1 2

図1 システム・バックアップについての考察

Ⅲ 番号制度対応WG

昨年五月に「番号法」が成立したことにより市町村で多岐に渡る対応が必要となることから、その対応について調査・研究することとした。具体的には、番号制度対応における市町村のスケジュール案作成及び情報保護評価書の例示作成をすることとした。

一 スケジュール案の作成

市町村の番号制度対応にとって有益なスケジュール案として「具体的な内容」「方法」「課題」を織り交ぜて作成提示することとし、「制度対応庁内体制等の確立」「影響度調査・検討」「例規等改正対応」「情報保護評価実施」「情報提供ネットワーク関係システム検討」「システム整備関連」「事業者としての番号制度対応」の項目において、具体的なスケジュール案を作成した。

二 情報保護評価書の例示作成

評価対象として、番号法の別表第一及び別表第二から、比較的件数が多く照会する機会が多いと思われる事務・特定個人情報として、生活保護・地方税・国民健康保険・介護保険・住民記録を選定し、これにメンバー全員で担当を定め、「しきい値評価書」及び「重点項目評価書」を作成することとし、その作成段階での作成者からの感想や留意点を併せて記載することとした。

とされた。

成果物として、各メンバーが作成した評価書を取りまとめ、より例示の主旨に合うものとして「生活保護システム」「住民税システム」「国民健康保険システム」「介護保険システム」「住民記録システム」の5システムについて、それぞれ「しきい値評価書」及び「重点項目評価書」を例示作成した。併せて、「作成に要した時間数」「作成に関わった人数」「作成してみた感想」「実際に作成するにあたっての留意すべき点」についてもまとめた。なお、番号制度においては五年間に及ぶ長期間対応が迫られるため、当WGを継続して実施していくこととした。

Ⅳ 電子調達WG

入札関連事務の電子化について調査・研究を行うこととし、共同利用による電子調達システム導入を前提とした中でより効率的で効果的な方法案を作成することとした。具体的な検討項目として「入札参加資格申請の共同受付」と「電子入札システムの共同利用」について、それぞれ切り離して調査・研究することとした。

一 入札参加資格申請の共同受付について

考察結果としては、申請要件及び提出書類の整理統一を図るとともに、恒常的に確認が必要となる内容

容については、必要事項を業者登録カードに記載して各市町村が所有する方法をとることとし、申請書類は、共同受付団体が一括で保管することとした。経費面では、受付方法として「やまなしくらしねっと電子申請機能」を活用することがベストな方法であり、この際、業者データを格納及び各市町村がダウンロードするための新たなシステムを構築する必要があると結論づけた。

各市町村が同一時期に同一事務を行っているため、共同受付を具現化する事が望ましいとし、共同受付の具現化に向けたスケジュール案を作成した。

二 電子入札システムの共同利用について

調査を行った結果、規模が大きな市などは高額入札が多いが規模の小さな町村では高額入札は少ない状況であることが分かった。経費面では、初期費用及び運用費用に相当な経費を要し、案件数が多くなければ費用対効果がでないといえるため、高額な入札案件が少ない町村も含めての共同化は極めて厳しいと結論づけた。

V おわりに

以上、行政手続きの電子化の促進と電算関係経費の

削減を並行して検討すべく各WGを設置して調査・研究を進めてきて思うことは、まず各市町村における共通の課題を皆で議論し抽出していくことにより、様々な方法で電子化の促進や電算関係経費の削減が可能になることが分かった。今回の議論では、共同処理がその目的を達成するための一つの方法として挙げられたが、市町村における業務を広く深く模索することにより、更なる効果が生まれ効率的な方法が見出せると思う。その具体的な延長線上に、事務の共同処理であったりシステムの共同利用があったりすると考える。

今後も引続き、市町村の課題解決に向けてWGを設置して調査・研究を進めていきたいと思う。

	H26			H27			H28			H29			H30
	4月	7月	10月	1月	4月	7月	10月	1月	4月	7月	10月	1月	
番号制度													
入札参加資格申請受付時期 (●: 定期年) (◎: 中間年)				●23団体 ◎4団体				●23団体 ◎4団体				●23団体 ◎4団体	
検討・導入スケジュール	◆共同受付参加団体募集 共同受付詳細検討 電子申請様式作成					申請DBサーバ構築						◆共同受付(本格運用) 参加全団体:2年受付	
関連事項	※申請データ受入れシステム(業者管理システム等)との整合(業種分類等)が必要												

図2 導入スケジュール案



上野原市 市民課

伊藤 美希

Miki Ito



私は、平成25年4月に上野原市行政職員として採用され、市民課に配属となりました。配属されてからは、日々の業務のなかで初めて知ることが多く、行政という仕事の幅の広さと深さに驚きの毎日を送っています。

さて、私は、市民課の中でも窓口の担当を務めています。窓口担当は、市民のみなさんと直接かわる機会が多い仕事で、「受付は市役所の顔」と言われたりします。この言葉は、受付の対応次第で市全体の印象が決まる重要な仕事という意味が込められています。

そんな市役所の顔である窓口担当の仕事は、住民票をはじめとする各証明書の発行、住所の変更、戸籍関係の届け出の受付、各課の案内などです。私は、これらの業務を経験することで、市全体の勉強をするよい機会であると感じています。私は、この機会を大切に、多くのことを学び、吸収していきたいと思っています。

まだまだ、至らないところばかりで、周囲のみなさんに迷惑をかけてばかりですが、迅速で丁寧な対応を心掛けて、日々の業務を頑張っていきたいと思っています。

市町村職員



山梨市 水道課

小林 太郎

Taro Kobayashi



山梨市の水道課管理担当として新規着任し、もうすぐ二年になります。

私の主な仕事内容は、旧牧丘町・旧三富村の水道施設（配水池や配水ポンプ、また地下に埋設されている水道管なども施設に含まれます）の管理ですが、簡単にいえば「安全で清浄な水道水を絶やすことなく供給すること」。そのためにパンクした水道管の修繕や、水質検査、水道施設のメンテナンスなどを行っています。ですから基本的に外仕事が大半ですし、公用車の運転距離が一日100kmを超えることもしばしば…。

この仕事をしていて一番重要だと思うこと、それは日々の点検です。

私は週に一度、必ず担当地区内全ての水道施設を訪問し、異状がないかを点検、確認しています。大抵の場合は「異状なし」。しかし、その何気ない「異状なし」の積み重ねが、「異状あり（最悪の場合断水ということも）」を未然に防ぎ、また被害を最小限に留め、地域住民の方々の日常生活を守ることになると思うのです。

では簡単ではありますが、このあたりで筆を置かせて頂き、今日も安全運転で三富に行ってきます。

はつらつ!!



忍野村 総務課

後藤 道久

Michihisa Goto



皆さんこんにちは。私は、忍野村に採用されて3年が経とうとしております。今年度の4月からは総務課に配属され、はつらつと財政を担当しています。

業務内容としては、歳入歳出予算の編成と経理に関する現状や問題点から今後の考え方を整理し事業の見直しや歳出抑制のための検討を行います。また、入札や契約等の事務を行っています。まだまだ未熟であり分らないことは多々ありますが素晴らしい上司に恵まれ、良い指導をして頂いており、やりがいのある様々な業務へ積極的に挑戦しています。

業務を行うにあたり、私は広い視野を持ち様々な視点から考え行動するように心掛けています。財政というポジションから各課の業務に少なからず携わるので責任感をしっかりと持ち業務を全うしたいと思います。

まだまだ業務上学ぶことは多いですが、今後も自分自身を日々スキルアップさせフレッシュさを忘れずアンテナを高くして、少しでも地域づくりに貢献できるように努力していききたいと思います。

はつらつ!!

はつらつ!!



山中湖村 いきいき健康課

小佐野あゆみ

Ayumi Osano



みなさんこんにちは。私は地域包括支援センターの保健師として、主に高齢者の相談業務や介護予防事業に携わっています。

介護予防教室の参加者を見ていても、山中湖村の高齢者の皆さんは非常に元気だなあと感じます。前向きで明るくはつらつとした姿で、体操教室では「保健師さんの方が年寄りのようだ」と笑われることもあります。時には孫のように暖かく見守られ、時には貴重な意見も頂きながら、やりがいを感じて日々の業務に取り組んでいます。

訪問や相談業務においては、まだ保健師としても未熟な部分は多く、思うようにいかず頭を悩ますこともあります。住民の生活に近くで関わっていく保健師という立場であるからこそ私に出来ることは、よく聴いて受容してよく考えて試行錯誤していただくと思います。地域の皆さんが健康で自分らしい生活を続けていくための援助者の一人になれるよう、これからも頑張っていきたいと思います。

市町村職員先進施策調査研修について

○概要

地方分権の進展や少子高齢化・人口減少社会の到来、住民ニーズの高度化・多様化など社会経済環境が大きく変化する中で、市町村の役割はますます大きくなっています。

こうした中で、市町村職員には、直面する諸課題に的確に対応できる専門能力や長期的・将来的な見地に立った政策形成能力等の一層の向上が求められています。

本協会では、市町村職員人材育成事業の一環として、市町村職員の政策形成、実務遂行等の行政対応能力を一層高めいただくため、当面する諸課題への対応又は新たな行政手法の導入等をテーマとして、県外先進市区町村の調査研修を行っています(研修実施状況は、別表参照)。

○平成26年度研修について

研修テーマ及び研修先の選定は、毎年度、市町村の意向を把握したうえで行っており、平成26年度のテーマ等についても、本研修意向調査を平成26年2月14日付け梨市振発第16号にて各市町村へ依頼しておりますので、テーマや先進自治体の情報についてご教示いただけますようお願いいたします。

また、研修のテーマや研修日程等決定したところで、順次、各コース毎研修を開催いたしますので、研修へのご参加についてもご検討くださいますようお願いいたします。

なお、本研修に要する旅費については、参加市町村の負担となりますが、当該旅費のうち本協会が、約3分の2を負担いたします。

市町村職員先進施策調査研修実施状況

年度	テーマ	研修先1	研修先2	研修受講者数
平成23年度	再生エネルギー活用	福岡県大木町	福岡県北九州市	8人
	6次産業化・農商工連携	(株)埼玉種畜牧場サイボクハム (埼玉県日高市)	群馬県前橋市	5人
	職員のメンタルヘルス	東京都目黒区	栃木県真岡市	7人
	挑戦する職員	静岡県磐田市	静岡県浜松市	8人
平成24年度	市民講座を活かしたまちづくり	埼玉県八潮市	千葉県四街道市	6人
	業務継続計画(BCP)	東京都日野市	神奈川県藤沢市	7人
	公共施設マネジメント～公共施設白書作成からその取組まで～	千葉県習志野市	神奈川県秦野市	11人
	税の徴収対策・債権管理	千葉県船橋市	東京都国分寺市	8人
平成25年度	これからの地域交通 (デマンドバス)	埼玉県北本市	埼玉県加須市	7人
	元気で健康なまちづくり	静岡県藤枝市	愛知県尾張旭市	6人

※平成25年度の実施件数の減は、平成26年2月中旬に予定していた2コースが大雪のため中止となったことによるもの。



鳥原 弘達さん

Hirotatsu Torihara
 (北杜市 福祉部 子育て支援課
 少子化対策担当)

子育て支援



どこの自治体でも少子化や若年者の都市部への流出による人口減少は喫緊の課題です。北杜市においても、出生人口は年々減少しており、20歳・30歳代の若年者は市外へ転出している状況です。

子育てへの支援策としては、保育料第2子目以降の無料化、放課後児童クラブの低額での利用、ファミリー・サポート・センターの設置、放課後子ども教室の積極的な実施など、子どもの成長に合わせた子育て支援を推進し、子育てしやすいまちを目指しています。

一方で、北杜市の豊かな自然や充実した子育て支援策に魅力を感じた子育て世帯が、北杜市へ移住・定住するための住環境が不足していました。

そこで、子育て世帯に移住・定住してもらうための住環境の整備として、子育て支援住宅を建設することになりました。この住宅は、これまでの市営住宅とは異なり、子育て世帯が入居しやすい要件や家賃の設定としたり、子育て世帯向けの設備を整えたり、定住に向けた支援を行ったりしていく予定です。

“一流の田舎まち 北杜市”の、豊かな自然のなかで、子育てを楽しみませんか。

AFTER NOTES

編集後記

今回の特集は、多くの編集委員から提案のあった「公共施設白書」を取り上げ、今後の公共施設のあり方や県内で既に作成済みの2市の取組みを特集いたしました。

また、東日本大震災からこれまでの間、中長期的に被災市町村へ派遣され、被災地での業務に携わった職員の方々に、今号と次号の2回に分けて、被災地の現状や業務内容等紹介いただいています。

本誌は、今後も市町村職員情報誌として、編集委員と共に、一層の内容の充実等図って参りたいと思います。皆様から、特集のテーマをはじめご意見等お寄せいただけますようお願いいたします。

結びに、大変お忙しい中、執筆していただいた皆様には、深く感謝を申し上げます。

市町村職員情報誌「やまなし自治の風」編集委員会委員名簿

役職名	団体名	職名	氏名
委員長	上野原市	企画課副主査	大神田道成
副委員長	富士河口湖町	政策財政課主事補	小林 颯
委員	大月市	企画財政課主任	榎本 真之
	山梨市	政策秘書課主査	飯島 幹根
	甲州市	政策秘書課副主査	飯島 慎也
	中央市	政策秘書課主事	木谷 昌経
	身延町	政策室副主幹	佐藤 成人
	富士川町	企画課主査	土橋 学
	鳴沢村	総務課主事	渡辺 知貴
	小菅村	総務課副主査	守重 公英
	山梨県	市町村課主事	佐藤 祐一
	山梨県市長会	総務課主事	金丸 太一
山梨県町村会	総務課副主幹	原 和昭	

時速 500km/h の世界を 体験できる! 学べる!



2014
4.24 (木)
13:00
リニューアル
オープン!

山梨県立 リニア見学センター

Yamanashi Prefectural Maglev Exhibition Center



学ぶ!

世界最速を記録した車両の実物展示



体験
する!

磁気浮上走行を体感! ミニリニア



見る!

実験線の走行を間近で見られる!
(運行時刻の情報は見学センター Web サイトにてご確認ください)



〇とどきどきリニア館 (新館) イメージ

●開館時間 : 午前9時~午後5時 (入館は午後4時半まで)
●休館日 : 毎週月曜日 (月曜日が祝日の場合は翌火曜日) (火曜日が祝日の場合は開館)
祝日の翌日 (祝日の翌日が金、土、日の場合は開館) 一年年始 (12/29 ~ 1/3)



●交通アクセス

〒402-0006 山梨県都留市小形山 2381

●お問い合わせ : (3月中) 山梨県リニア交通局リニア推進課
: (4月以降) 山梨県立リニア見学センター

TEL 055-223-1664
TEL 0554-45-8121

<http://www.linear-museum.pref.yamanashi.jp>



平成26年4月24日に山梨県立リニア見学センターがリニューアルオープンします。

リニア実験線で行われているL0(エル・ゼロ)系車両による走行試験の様子を間近で見学できることに加え、鉄道の世界最速記録を樹立した試験車両やリニア開通後の山梨を表現した大型ジオラマなどを展示します。また、超電導リニアの仕組みを理解するための装置や実験、浮上走行が体験できる乗り物など体験・学習機能を充実させた施設となります。